

# 埼玉学園大学・川口短期大学 機関リポジトリ

## Research on the Field of “Environment”

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-02-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長友, 大幸, 生野, 金三 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/1426">https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/1426</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 領域「環境」の研究

## Research on the Field of “Environment”

長 友 大 幸・生 野 金 三

NAGATOMO, Hiroyuki SHONO, Kinzo

### I はじめに

2016（平成28）年中央教育審議会は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」という答申を公表した。それを踏まえて2017（平成29）年に「幼稚園教育要領」が改訂された。この「幼稚園教育要領」は、2018（平成30）年より施行された。上記の答申及び「幼稚園教育要領」においては、幼児期に育みたい資質・能力の三つの柱、それを踏まえて「幼児の終わりまでに育ってほしい姿」が明らかにされた。前者の資質・能力の三つの柱をめぐっては、

- ①「知識・技能の基礎」
- ②「思考力・判断力・表現力等の基礎」
- ③「学びに向かう力・人間性等」<sup>1)</sup>

としている。「知識・技能の基礎」とは、具体的には、遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになったりすること、「思考力・判断力・表現力等の基礎」とは、具体的には、遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫し

たり、表現したりすること、「学びに向かう力・人間性等」とは、具体的には、心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営もうとすることである<sup>2)</sup>。この資質・能力は、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、感性を働かせてよさや美しさを感じ取ったり、不思議さに気付いたり、できるようになったことなどを使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることなどを通じて育むことを重要視している。一方、後者の「幼児の終わりまでに育ってほしい姿」は、環境を通して行うものであり、就中幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特성에応じて、育っていく姿である。本研究の領域「環境」と最も関わりを有するのは、10の姿の「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」等の三者である。

以上のことを踏まえ、本研究では領域「環境」の「ねらい」及び「内容」等について触れ、加えて領域「環境」の指導法について探ることを目的とする。

---

キーワード：領域「環境」、資質・能力、指導法、指導案

Key words : field of “environment”, qualities and abilities, teaching method, teaching plan

## Ⅱ 領域「環境」の「ねらい」及び「内容」について

2017（平成29）年に幼稚園教育要領が改訂された。領域「環境」の「ねらい」及び「内容」

等と2008（平成20）年に改訂された幼稚園教育要領及び1988（平成10）年改訂された幼稚園教育要領等の「ねらい」及び「内容」等との対比を試みる。

幼稚園教育要領（1998〈平成10〉年）	幼稚園教育要領（2008〈平成20〉年）	幼稚園教育要領（2017〈平成29〉年）
<p>1 ねらい</p> <p>(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。</p> <p>(2) 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</p> <p>(3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p>	<p>1 ねらい</p> <p>(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。</p> <p>(2) 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</p> <p>(3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p>	<p>1 ねらい</p> <p>(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。</p> <p>(2) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</p> <p>(3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p>
<p>2 内容</p> <p>(1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。</p> <p>(2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ。</p> <p>(3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。</p> <p>(4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。</p> <p>(5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。</p> <p>(6) 身近な物を大切にする。</p> <p>(7) 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。</p> <p>(8) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。</p> <p>(9) 日常の生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。</p> <p>(10) 生活に関係の深い情報や施設などに関心をもつ。</p> <p>(11) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。</p>	<p>2 内容</p> <p>(1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。</p> <p>(2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ。</p> <p>(3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。</p> <p>(4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。</p> <p>(5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。</p> <p>(6) 身近な物を大切にする。</p> <p>(7) 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。</p> <p>(8) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。</p> <p>(9) 日常の生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。</p> <p>(10) 生活に関係の深い情報や施設などに関心をもつ。</p> <p>(11) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。</p>	<p>2 内容</p> <p>(1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。</p> <p>(2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ。</p> <p>(3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。</p> <p>(4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。</p> <p>(5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。</p> <p>(6) <u>日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。</u></p> <p>(7) 身近な物を大切にする。</p> <p>(8) 身近な物や遊具に興味をもって関わり、<u>自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。</u></p> <p>(9) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。</p> <p>(10) 日常の生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。</p>

まず、「ねらい」であるが、三者の内容を対比してみると、(2)の「……自分からかかわり」の部分（1998〈平成10〉年及び1998〈平成10〉年）が「……自分から関わり」に変更されている。それ以外は、従来と同じである。補足すると、「ねらい」の(2)の「発見を楽しんだり、考えたりし、」という文言は、従来（1989〈平成元〉年）存在しなかった。ここでは、発見したり、どうすれば面白くなるかを考えたりしたこと等を、更に異なる場面に活用したり、遊びに使用して新たな使用方法を見付けたりすることを願っている。

次いで、「ねらい」の(1)に「自然と触れ合う中」、(3)に「物の性質や数量、文字など」とあるが、これらの「ねらい」を達成するに当たっては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10の項目の⑥と⑦と⑧に着目することである。それは、⑥に「思考力の芽生え」、そして、⑦に「自然との関わり・生命尊重」、更に⑧に「数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚」等の内容が掲げられているからである。

以上は、「ねらい」に関する内容である、以下においては、「内容」について見てみる。三者を対比して気付くことは、(6)の内容「日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。」が追加されたこと、加えて従来の(7)の内容「身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。」が「身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ (8)。」に変更されたことである。前者の(6)の内容であるが、それは幼児が、日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に触れ、長い

歴史の中で育んできた文化や伝統の豊かさに気付くことを願っている。例えば、幼児が教師と一緒に飾りを作りながら七夕の由来を聞くという体験を通して、次第にそのいわれやそこに込められている人々の願いなどに興味や関心をもつことができるようになることを願っている。更に、ここではこのような幼稚園生活で親しんだ伝統的な遊びを家族や地域の人々と一緒に楽しむことを通して、幼児が豊かな経験を体験することも願っている。こうしたことが延いてはグローバル化社会の中で、自分とは異なる文化に触れることにも結び付き、より豊かな体験していくことも考えられる。一方、後者の(8)の内容であるが、それは前述の如く従来(7)の内容に「……自分なりに比べたり、関連付けたりしながら」という文言が付加されている。ここでは、幼児が身近にあるものを使って工夫して遊ぶようになるためには、指導者である教師は、幼児が心と体を働かせて物とじっくり関わるができるような環境を構成し、対象となるその物に十分関わるができるようになることが大切であるとしている。対象となる物に関わる際、幼児は手で触ったり、全身で感じてみたり、あることを繰り返してみたり、考えたりする。今回は、これに加えて、自分なりに比べたり、これまでの体験と関連付けたりするということも重要視している。ここに関連付けたりとあるが、これは幼児期における遊びの特性からみても極めて重要なことである。そのことは、幼稚園教育要領において「遊びを展開する過程においては、幼児は心身全体を働かせて活動するので、心身の様々な側面の発達にとって必要な経験を相互に関連し合い積み重ねていく<sup>3)</sup>」「幼児期は諸能力が個別に発達していくのではなく、

相互に関連し合い、総合的に発達していくのである<sup>4)</sup>。」とあることから理解できよう。

先に「幼児の終わりまでに育てほしい姿」について触れたが、それは領域の「ねらい」及び「内容」に基づいて、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿である。

以下に領域「環境」の内容を幼稚園教育において育みたい資質・能力（「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」）との関りより見てみる。「知識及び技能の基礎」とは、前述の如く具体的には、豊かな体験を通じて、幼児が自ら感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりすることであり、斯様なことは、内容の(1)(3)(6)(10)等においてが認められる。例えば、(1)の内容には、「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。」とある。幼児は身近な自然と触れ合うことによって、その自然に心を動かされ、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどを全身で感じ取るであろう。具現すれば、蜘蛛の巣に光る露に心を動かされたり、自分が育てた鳳仙花の実が熟すると皮が裂け種をはじき出す姿に不思議さを感じたりする。斯様な幼児の自然との出会いを見逃さないようにすることが教師の関りとして重要である。(3)(6)(10)等については、割愛する。

次いで、「思考力、判断力、表現力等の基礎」について見てみる。これは前述の如く具体的には、遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりすることであり、斯様なことは、内容の

(2)(5)等においてが認められる。例えば、(2)の内容には、「生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ。」とある。幼児は、日常生活の中で、様々な物に触れたり、確かめたりしながら楽しんでいる。更に、それに関心をもって繰り返し関わる中で、次第にその性質や仕組み等に気付いていく。例えば、幼児が絵本の読み聞かせの後、園内でコオロギ探しをしていた。探しても見付からなかった。その時A児が「溝（側溝）のふたのある暗い所で見つかったよ。」と言った。それを聞いたB児が「コオロギは、枯れた葉っぱの下の少し水（湿気）のある所にいるかも。」と言った。それを受けて皆でコオロギを探したところ、コオロギが見付かった。このB児は、コオロギの住処をA児の言葉を基に暗い湿気のある所と推察したのである。ここでは、仲間の存在は、幼児が物と多様な関りをするを促し、それに触発されて再びコオロギ探しが始まったのである。この過程を整理すると、コオロギ探しに興味をもった仲間が集まり、新しいあいアイデアが付加され、その物の性質等について新たな一面を発見するという展開である。(5)については、割愛する。

斯様な資質・能力の三者を念頭に置いて、領域「環境」の指導法においても教育・保育を展開していくことが重要であろう。

### Ⅲ 領域「環境」の指導法の基盤

まず、「保育内容の指導法」の基本である「各領域のねらい及び内容」と「保育内容の指導法及び保育の構想」等の内容を見てみる。前者の「各領域のねらい及び内容」をめぐっては、以下の四者が重要であるとする。

- ① 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び主要内容並びに全体構造を理解する。
- ② 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- ③ 幼稚園教育における評価の考えを理解している。
- ④ 各領域で幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりを理解している<sup>5)</sup>。

ここでは、幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解することを願っている。

②に「指導上の留意点を理解している。」とあるが、その例を見てみる。領域「環境」の「内容の取扱い」の(1)に「幼児が、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること<sup>6)</sup>。」とある。幼児は、遊びの中で好奇心を抱いたものに対してより深い興味を抱き、探究していく。そして、そのものはどのような意味を有するか、どのように用いればよいのだろうかと不思議に思い探索する。斯様な幼児の特性に鑑み、指導者である教師は、環境の中に存在するそれぞれの特性を生かし、その環境から幼児の興味や関心を引き出すような状況を構成していかなければならない。

③の「幼稚園教育における評価」とは、幼児理解に基づいた評価のことである。幼稚園においては、行動の仕方や考え方等に表れた

その子供らしさを大切にして、一人一人の幼児が、そのよさを発揮しつつ、育っていく過程を重視する必要がある<sup>7)</sup>。その際、その幼児が現在、何に興味をもっているのか、何を実現しようとしているのか、何を感じているの等を捉え続けていく必要がある。幼児の思いや気持ちを丁寧に感じ取ろうとすることが大切である。

④に「小学校の教科とのつながりを理解している。」とあるが、ここでは、幼稚園は、学校教育の一環として、幼児期にふさわしい教育を行うものであり、その教育が小学校以降の生活や学習の基盤ともなることを踏まえることである。そして、就中、子供の発達と学びの連続性を確保するために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を手掛かりに、幼稚園と小学校の教師が共に幼児の成長を共有することを通して、幼児期から児童期へ発達の流れを理解することが大切である。

一方、後者の「保育内容の指導法及び保育の構想」をめぐっては、以下の五者が重要であるとされる。

- ① 幼児の認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。
- ② 各領域の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- ③ 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- ④ 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。

⑤ 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる<sup>8)</sup>。

ここでは、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることを願っている。

具体的な指導場面を想定した保育の構想とは、具体的なねらい及び内容、環境の構成、教師の援助等といった指導の内容及び方法を明確にすることである。具体的なねらい及び内容は、幼稚園生活における幼児の発達の過程を見通し、幼児の生活の連続性、季節の変化等を考慮して、幼児の興味や関心、発達の実情等に応じて設定することである。そして、環境の構成は、幼児が自らその環境に関わるにより様々な活動を展開しつつ必要な体験が得られるようにすることである。その際、幼児の生活する姿や発想を大切に、常にその環境が適切なものとなるようにすることである。幼児が望ましい方向に向かって自ら活動を展開していくことができるよう、教師の必要な援助が大切である。

以上は、5領域のねらいや内容を踏まえた上で、保育内容の指導法で実践すべき力を身に付けることを示した内容である。




#### Ⅳ 領域「環境」の指導法

領域「環境」の内容の(1)に「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。」とあり、又内容の(3)に「季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。」とある。前者においては、幼稚園生活の中で可能な限り身近な自然に触れる機会を多くし、幼児なりにその大きさ、美しさ、不思議さ等を全身で感じ取る体験をもつようにすることを願っている。斯様な自然との出会い、そして感動するような体験は、自然に親しみ、愛情を育て、延いては科学的な見方及び考え方の芽生えを培う基盤となるものである。一方、後者においては、幼稚園内外の自然や地域社会の人々の日常に触れ、季節感を導入した幼稚園生活を体験することを通して、季節により自然及び人間の生活に変化があることに幼児なりに興味及び関心をもつようにすることを願っている。そのためには、園内の自然環境を整備したり、季節感のある遊びを取り入れたりするなどして、幼稚園生活の自然な流れの中で、幼児が季節の変化に気付き、感じ取れるようにすることが大切である<sup>9)</sup>とする。斯様なことは、テレビ及びビデオ等を通しての間接体験の機会が増えてきている現代、幼稚園において自然と直接触れる機会を設けることは極めて重要である。

#### 【指導案】【事例1】題材「枯れ葉を使って遊ぼう。」

[子供の実態] 子供たちは、紅葉を見て「きれいだね。」と言ったり、落ち葉を集めて遊んだりしている。	ねらい	・身近な環境に自分から関わり、自然に触れて、見たり、楽しんだり、考えたりしてその変化に気付く。そして、様々な事象に興味や関心をもつ。
	内容	・枯れ葉を踏んだり、手で握りつぶしたりして音の不思議さに気付く。 ・自然の事象に関心をもち、季節の変化に気付く。

領域「環境」の研究

環境構成	予想される幼児の活動	援助
<p>・ 枯れ葉を机の上に置く。</p> <p>10)</p>  <p>・ 粉々になった枯れ葉</p> 	<p>1 机の上の枯れ葉を見ながら、教師の話聞く。</p> <p>・ 枯れ葉をそれぞれの子供が触れる。</p> <p>子供 → カサカサ           → ガサガサ</p> <p>・ 枯れ葉を握りつぶす。</p> <p>子供 → バリバリ (大きな音)           → バリバリ (小さな音)</p>	<p>・ 机の上の枯れ葉に着目させる。何処で収集したかを問い、枯れ葉に対する興味及び関心を高めさせる。そして、枯れ葉をそれぞれ手で触れさせ、子供の感想を聞く。</p> <p><u>思・判・表</u>枯れ葉の音 (カサカサ、ガサガサ) を口々に言う。</p> <p>・ 枯れ葉を手に取り、粉々に握りつぶすように問い掛けをする。どんな音が出るかを確認させる。最初は、大きな音が出るが、徐々に小さくなるに従って小さい音になることに気付かせ、と同時にその様子を視覚的に捉えさせる。</p> <p><u>思・判・表</u>枯れ葉の音 (バリバリ) を口々に言う。</p>
<p>・ 床の上にシートを敷き、その上に枯れ葉を置く。</p> <p>11)</p> 	<p>2 シート上の枯れ葉を見ながら、教師の話聞く。</p> <p>・ 枯れ葉を足で踏む。</p> <p>ゆっくり踏む。→ガサ</p> <p>強く踏む。→ガサガサ</p> <p>3 枯れ葉と青い葉とを比べる。</p> <p>・ 季節の変化に気付く。</p> <p>・ 枯れ葉→秋</p> <p>・ 青い葉→夏</p>	<p>・ シート上の枯れ葉を足で踏むことを、予め話、その場所へグループごとに移動させる。</p> <p>・ 枯れ葉を踏むとどのような音がするかを、予想させ、活動への興味や関心を高めさせる。</p> <p>・ 折り重なった枯れ葉の音 (ガサガサ) の面白さに気付かせる。</p> <p><u>思・判・表</u>枯れ葉の音 (ガサ、ガサガサ) を口々に言う。</p> <p>・ 枯れ葉と青い葉とを比べさせ、それぞれいつの季節の葉かを考えさせる。そして、季節によって葉の色が変化することに気付かせる。</p> <p><u>思・判・表</u>秋又は夏と口々に言う。</p>

【考察】

上記は、「身近な環境に自分から関わり、自然に触れて、見たり、楽しんだり、考えたりしてその変化に気付く。そして、様々な事象に興味や関心をもつ。」という「ねらい」を志向して、枯れ葉を踏んだり、手で握りつぶしたりして音の不思議さに気付いたり、自然の事象に関心をもち、季節の変化に気付いたりする活動等を中核に据えて展開を試みた。


幼児が季節の変化に気付くことは、前述の如く領域「環境」の内容においても重要視されている。ここでは、自然の中に存在する音を意識させ、それを基に季節の変化に気付かせようと展開を試みた。自然の中での音の存在をめぐっては、領域「表現」の内容で重要視されている。その様相を見てみる。具現すれば、「内容」の(1)に「生活の中で様々な音、……手触り、動きなどに気付いたり、感じた




りするなどして楽しむ。」とあり、又「内容」の(4)に「感じたこと、考えたことなどを音や動きなどに表現したり」とある。更に、「内容の取扱い」の(1)に「風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。」とある。「内容」の(1)では、幼児が周囲の環境に対して何かに気付いたり感じたりして、その気持ちを表現しようとする姿を温かく見守り、心ゆくまで対象と関わることを楽しめるようにすることを願っている。「内容」の(4)では、幼児が感じたり、考えたりしたこと等を音や声、身体の動き、形や色等に託して自由に表現できるようにすることを願っている。最後の「内容の取扱い」の(1)では、幼児が風の音や雨の音、身近に存在する草や花の形や色等、自然の中にある音、形、色等に気

付き、それに聞き入ったり、眺めたりすることを願っている。三者の何れも幼児の一人一人の豊かな感性を養う上で極めて重要なことである。斯様なことに鑑みると、領域「環境」の内容と領域「表現」の内容とを連携して授業を展開することは極めて重要である。そのことは、2015（平成27）年の中央教育審議会の答申「これからの学校教育を担う教員の資質の力の向上について」において、教育課程における科目の大きくくり化及び教科と教職の統合の推進という観点からみても重要なことである。加えて、幼児教育が「遊びを通しての総合的な指導」を重要視していることを念頭の置くとき、この領域「環境」の内容と領域「表現」の内容との複合領域の指導法の必要性が浮き彫りにされる。

【指導案】【事例2】題材「色水を作って遊ぼう。」

<p>[子供の实態] 子供たちは、いろいろな色の花や野菜を見て「お花がきれい。」「いろいろな色がある。」「お家にも咲いているよ。」などと言っている。</p>	<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然環境に自分から関わり、見たり、触ったり、楽しんだりして、その特徴や差異に気付き、自然に対する興味や関心をもつ。</li> </ul>
	<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏に咲く花や野菜を用いて色水を作ったり、絵を描いたりして植物を身近に感じ、多様性に気づく。</li> <li>・植物を通して自然の色の美しさを感じる。</li> </ul>
環境構成	予想される幼児の活動	援助
<p>・色が出やすい植物や野菜を机の上に置く。</p> 	<p>1 机の上の花や野菜を見ながら、教師の話聞く。 ○それぞれの色を教師の問いに対して答える。 (主な花や野菜) ・マリーゴールド：黄色 ・朝顔：青 ・ピーマン：緑 ・シソの葉：紫 ・その他、数種類</p>	<p>・机の上の花や野菜に着目させ、どこに咲いていたのか、どこから収穫してきたのかを聞く。 ・花や野菜に対する興味・関心を高めるため、それぞれ手で触れさせて観察する。 思・判・表色の違いに気づき、それぞれ何色なのかを発表している。</p>

領域「環境」の研究

<p>・野菜や花を入れるビニール袋（透明）</p>  <p>・色水を注ぐプラスチックコップを用意する。</p> <p>・はがきの大きさのキッチンペーパーを縦方向に半分に切ったものを用意する。</p> <p>・作品の載せて乾かすことができるようプラスチックケースを用意する。</p> <p>・ラミネーターで作成したしおりを見本として用意する。</p> <p>・しおりに付けるリボンを何種類か用意する。</p>	<p>2 机の上にある花や野菜を用いて色水を作る。</p> <p>○花や野菜を選んで、それぞれビニール袋に1種類ずつ入れる。</p> <p>○ビニール袋に水を入れた後、色が水に出るように強くビニール袋の外から花や野菜をもむ。</p> <p>(子供の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水に色がついたよ。</li> <li>・もっと色を濃くするにはどうしたら良いの。</li> <li>・同じ野菜でも色が少し違うよ。</li> </ul> <p>○色水をそれぞれ別々のプラスチックコップに注ぐ。</p> <p>(子供の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの色水ができたね。</li> <li>・絵の具のようだね。</li> <li>・これを使って絵を描けるね。</li> </ul> <p>3 できた色水を使って、キッチンペーパーに色を付ける。</p> <p>○キッチンペーパーを八つ折りにする。</p> <p>○八つ折りにしたキッチンペーパーのそれぞれの角に色水を適量湿らせる。</p> <p>(子供の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1種類の色水を全部に付けてみたよ。</li> <li>・4つ全部違う色にしてみたよ。</li> <li>・角以外のところには色を付けてはいけないの。</li> </ul> <p>○それぞれの角に色水を湿らせたなら八つ折りにしていたキッチンペーパーを広げ、乾かしながら自分の模様を確認する。</p> <p>(子供の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもきれい。</li> <li>・ダイヤがいっぱいついているみたい。</li> <li>・にじんで1つ1つの模様が違ってしまったけど良いの。</li> </ul> <p>4 自分の作品を見ながら、教師の話聞く。</p> <p>○もともとの花や野菜と色水を付けた作品の色を比べ、教師の問いに対して気が付いたことや疑問に思ったことなどを答える。</p> <p>(子供の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花や野菜の色とできた色水の色が少し違った。</li> <li>・同じ紫色の花でも色水にしてみると違う色になった。</li> <li>・コップの中では濃かったけど、紙に塗ったら薄かった。</li> </ul> <p>○ラミネーターを使って、来週までに作品をしおりにしておくとの説明を聞く。</p>	<p>・好きな花や野菜を4種類まで選ばれる。</p> <p>・強く揉んでも色が出ないときは、すり鉢ですりつぶしてやってみよう伝える。</p> <p><u>思・判・表</u>どのように揉めば色が出やすいかを考えながら作業している。</p> <p><u>知・技</u>同じ色の花や野菜でも、入れる花や野菜の量、水の量によって色水の色に違いあることに気づいている。</p> <p>・袋の中の花や野菜の破片がコップに入らないように入れさせる。</p> <p>・キッチンペーパーを折る際は、教師と一緒に説明しながら八つ折りにしていく。</p> <p>・色水をキッチンペーパーに付ける際には、どのくらいの量を付ければ良いのかわかるよう、やり方を教師が演示によりあらかじめ見せる。</p> <p><u>思・判・表</u>色色の組み合わせを自分で考え、色水の量に気を付けながら色を付けている。</p> <p>・濡れたままのキッチンペーパーは脆いので、広げる際には十分注意させる。</p> <p>・十分に乾いていないので、作品には触らないよう指導する。</p> <p>・作品の色と元の花や野菜の色とを比較し、違いや共通点など気が付いたことをなるべく多く答えさせる。</p> <p><u>態度</u>活動を通して気が付いたことや疑問に思ったことを進んで発言している。</p> <p>・見本のしおりを見せながら、リボンは何色がいいかをあらかじめ聞いておく。</p>
--	---	---

**【考察】**

本活動の「身近な自然環境に自分から関わり、見たり、触ったり、楽しんだりして、その特徴や差異に気付き、自然に対する興味や関心をもつ。」との「ねらい」から、ここでは身近な自然物にふれ、自然に対する興味・関心につなげていくために、絵の具を用いて人工的な色水を作るのではなく、自然界に存在する花や野菜を用いて色水を作る。

子供たちは絵の具を使って色水を作り、遊んだ経験がある。絵の具は種類が多く、カラフルな様々な色を簡単に作って遊ぶことができる。また、子供たちはそうした絵の具を使って花や野菜の絵を描くこともある。しかし、絵の対象となっている花や野菜そのものから色を抜き出し、色水を作って遊んだ経験のあ

る子供は少ないと思われる。

幼稚園教育要領における領域「環境」の内容(1)には「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。」とあり、(2)では「生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。」とある。これらを受けて本時の展開では、活動を通じて花や野菜など身近な自然の中にある色がついているものから色を取り出せること、取り出した色は絵の具のような人工的な色とは違った色になること、加える花や野菜及び水の量の違いによって色の違いが様々であることなどを体験させることにより、自然の持つ不思議さや美しさに気付かせ、自然に対する興味・関心を高めていく。

**【指導案】【事例3】 題材「ウメの花祭りを開こう。」**

以下においては、領域「環境」を中核に据えて領域「言葉」及び領域「表現」等の連携による複合領域の指導法の展開の様相である。まず教師の話聞いて①園庭に出かけ、田んぼの近くでウメの花を探す活動、②ウメ祭りをしようと話し合う活動、③ウメ祭りをを行うに当たっての準備活動等の三者の内容である。

- A児は、ウメの花を見つけるために急いで園庭に出かけ、田んぼの近くでウメの花を見つけた。  
A児：「先生、こっちに来て！ウメの花があったよ！」  
教師：「ほんとだ、きれいだね。」  
A児：「きれいでしょ。すごくきれいだから、お祭りをしたらどうかな？ウメの花祭りをしたいな。」  
教師：「楽しそうね。先生も仲間に入りたいな。友達に聞いてみようか。」
- A児がいつも一緒に遊んでいるB児、C児のところへ行き、話しかけた。  
A児：「お祭りを開きたい。」  
B児：「いいよ。」
- ウメの花祭りを開くことになった。  
B児：「おうちの人にも来てほしいな。」  
教師：「今度保育園参加があるよ。」  
B児：「じゃあその日にしよう。」
- 後園活動でクラス全体に伝えることにした。  
B児：「保育園参加の時にお祭りをしてお母さん達を招待しよう。みなで準備をしていこう<sup>12)</sup>。」

【考察】

①園庭に出かけ、田んぼの近くでウメの花を探す活動について見てみる。ここでA児は、教師の話聞き、ウメの花に興味や関心もち、それを探そうと活動を展開している。子供は、身近な自然と触れ合う活動の体験を重ねながら、その美しさ、不思議さに心を動かされ、自然の変化に気付いていくのである。これは、正に幼児が身近な環境に好奇心をもって関わっている姿である。このようなことは、領域「環境」で重要視されている。こうした領域「環境」での活動を、幼児は遊びや生活に取り入れよう教師及び他の子供に話している。それは、②ウメ祭りをしようと話し合う活動である。ここでは、教師が「楽しそうね。先生も仲間に入りたいな。友達に聞いて見ようか。」、そして「A児がいつも一緒に遊んでいるB児、C児のところへ行き、話しかけた。」としている。ここでは、ウメとなる素材を媒介としてイメージを広げウメ祭りという表現活動への方向性を垣間見ることができよう。その過程においては、教師と遣り取りを行い、他の子供と遣り取りを行うというように子供は、相手にこうして欲しいと思うことを伝えている。ここには、言葉による伝え合いの様相が認められる。これは、領域「言葉」において重要視されている。この活動を契機にしてウメ祭りという表現活動が展開されるのである。そして、③ウメ祭りをを行うに当たった準備活動が展開される。これまでの活動を整理してみると、領域「環境」の活動を契機にして、言葉で伝え合うという領域「言葉」の活動へ展開し、そして領域「表現」活動へ発展していくのである。ここからは、教育課程における科目の大きくくり化の方向性、つまり領域「環境」、領域「言葉」

及び領域「表現」という複合領域の指導法の方向性が見られる。この複合領域の指導法においては、幼児期に育みたい資質・能力の三つの柱、つまり、これまでの経験を基に、自然の変化に気付いたり、ウメ祭りに必要な材料や道具を作ったりという「知識・技能の基礎」、ウメの花からお祭りへの考えが広がるという「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「おうちの人をもてなしたい」という思いをみんなで共有する「学びに向かう力、人間性等」等の育ちが認められるとする。

V おわりに

本研究では領域「環境」の「ねらい」及び「内容」等について触れ、加えて領域「環境」の指導法について探った。まず「ねらい」について見てみる。「ねらい」の(1)に「自然と触れ合う中」、(3)に「物の性質や数量、文字など」とあるが、これらの「ねらい」を達成するに当たっては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10の項目の⑥と⑦と⑧に着目することが重要あるとした。それは、⑥に「思考力の芽生え」、そして、⑦に「自然との関わり・生命尊重」、更に⑧に「数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚」等の内容が掲げられているからである。次いで、「内容」であるが、(6)の内容「日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。」が追加されたこと、加えて従来の(7)の内容「身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。」が「身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ (8)。」に変更されたこと等について触れた。さらに、領域「環境」の内容を

幼稚園教育において育みたい資質・能力との関りより考察を加えた。領域「環境」の指導法をめぐっては、まず指導法の基盤について触れ、それを基に具体的な指導法について触れた。前者の「各領域のねらい及び内容」については、四者の重要性を指摘し、一方後者の「保育内容の指導法及び保育の構想」については、五者の重要性を指摘した。それを踏まえて、題材「枯れ葉を使って遊ぼう。」題材「色水を作って遊ぼう。」、題材「ウメの花祭りを開きたい」等の題材のもとに指導案を作成、考察を加えた。ここにおいては、重要視されている資質・能力の評価を「援助」の欄に掲げたり、教育課程における科目の大きくくり化を踏まえて、領域「環境」を中核に据えて、複合領域の指導法について考察を加えたりした。

[%E8%91%89%E6%8E%83%E9%99%A4?search\\_type=2](#)

11) 同上書

12) 鹿児島大学教育部附属幼稚園 「遊びの中で育まれる子どもの遊び」 2018（平成30）年P.50

#### [注]

- 1) 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」 2016（平成28）年 p.74
- 2) 文部科学省 『幼稚園驚教育要領解説』 フレーベル館 2017（平成29）年 p.50
- 3) 同上書 p.35
- 4) 同上書 p.51
- 5) 文部科学省総合教育政策局 教員人材政策所 『教職課程認定申請の手引き』（令和3年度開服用） p.166
- 6) 文部科学省 『幼稚園驚教育要領解説』 前掲書 p.207
- 7) 同上書 pp.121-122
- 8) 文部科学省総合教育政策局 前掲書 p.166
- 9) 文部科学省 『幼稚園驚教育要領解説』 前掲書 P.197
- 10) <https://pixta.jp/tags/%E6%9E%AF%E3%82%8C>